



## 例題と解説

### 例題 1

2つの数、AとBがあります。

$$A+A+B=48$$

$$A-B=6$$

このときAとBはそれぞれいくつですか。

答え A : 18 B : 12

#### [例題 1 の解説]

図1のように<sup>せんぶんず</sup>線分図を書いて考えます。

Aが2つとBが1つで合わせて48なので、

A 2本をたてに<sup>なら</sup>並べて線分図は図1のようになります。

$$(\text{飛び出した部分})=6 \times 2=12$$

$$48-12=36 \leftarrow B \text{ 3本分}$$

$$36 \div 3=12 \leftarrow B$$

$$12+6=18 \leftarrow A$$

式をまとめておきます。

$$(48-6 \times 2) \div 3=12 \leftarrow B$$

$$12+6=18 \leftarrow A$$

図 1

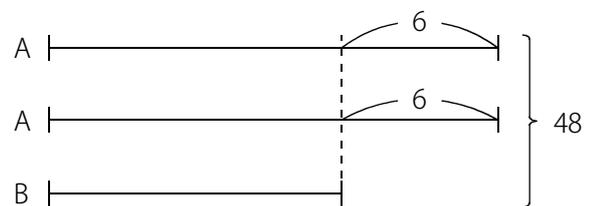
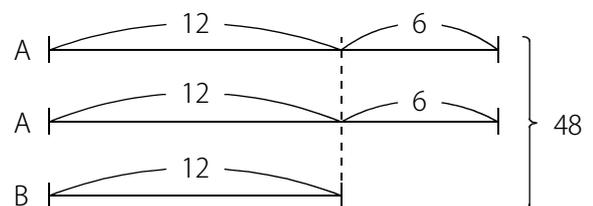


図 2





## 例題と解説

### 例題 2

3つの数、A、B、Cがあります。

$$A+A+B+C+C+C=52$$

$$A-B=2$$

$$C-A=4$$

このときA、B、Cはそれぞれいくつですか。

答え A:7 B:5 C:11

#### [例題 2 の解説]

2通りの解き方をしてみます。

1つ目はこれまで通り図1のように飛び出した部分をひいてBにそろえます。

$$52 - (2 \times 5 + 4 \times 3) = 30 \quad \leftarrow \text{B 6本分}$$

$$30 \div 6 = 5 \quad \leftarrow \text{B}$$

$$5 + 2 = 7 \quad \leftarrow \text{A}$$

$$7 + 4 = 11 \quad \leftarrow \text{C}$$

(別解)

2つ目の解き方は図2のようにへこんだ部分を足してCにそろえます。

$$52 + (4 + 4 + 6) = 66 \quad \leftarrow \text{C 6本分}$$

$$66 \div 6 = 11 \quad \leftarrow \text{C}$$

$$11 - 4 = 7 \quad \leftarrow \text{A}$$

$$7 - 2 = 5 \quad \leftarrow \text{B}$$

どちらにしても長さをそろえることで答えを求めることができます。

図1

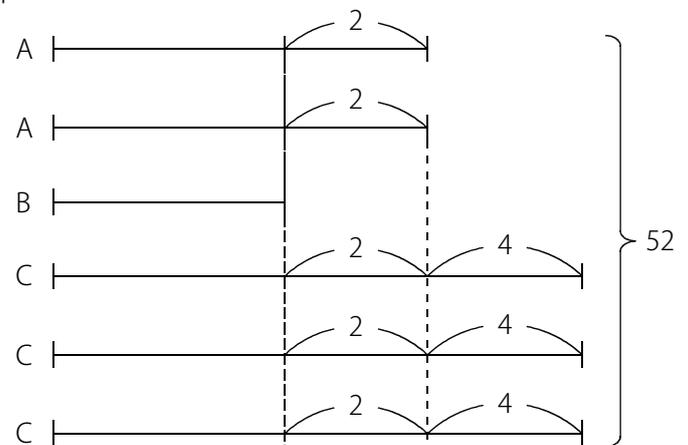
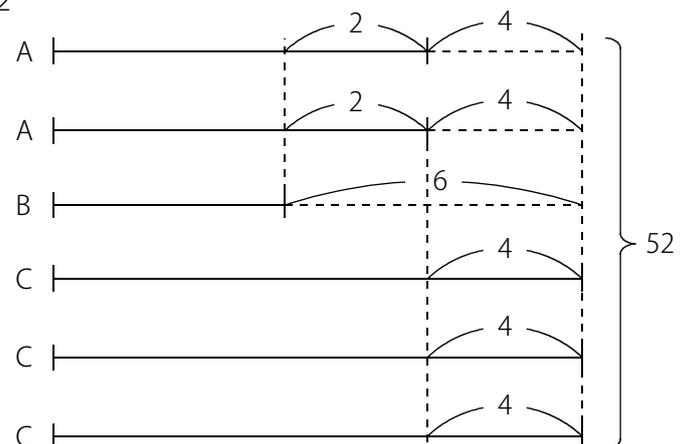


図2





例題3

長さ210cmのリボンをA君、B君、C君の3人で分けます。B君はA君の2倍、C君はB君の2倍の長さのリボンをもらうようにします。A君、B君、C君のそれぞれのリボンの長さは何cmですか。

答え A君：30cm B君：60cm C君：120cm

[例題3の解説]

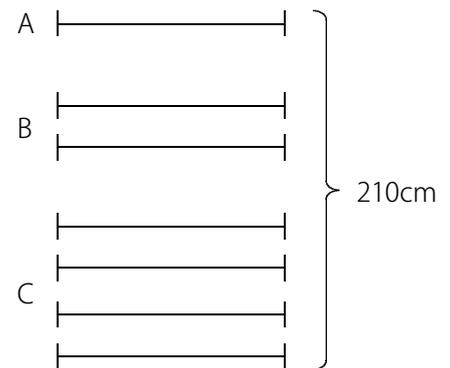
A君のリボンをもとにして線分図を書きます。

B君はA君の2倍なので2本、C君はB君の2倍なので4本となります。

全部で7本なので  $210 \div 7 = 30(\text{cm})$  ← A

$30 \times 2 = 60(\text{cm})$  ← B

$60 \times 2 = 120(\text{cm})$  ← C



(別解)

線分図を使わずに考えてみます。

A君のリボンの長さを○と考えます。このとき、B君のリボンは○○、C君は○○○○となります。

全部で○が7個で210cmなので、

$210 \div 7 = 30\text{cm}$  ← ○ (A君)

$30 \times 2 = 60(\text{cm})$  ← ○○ (B君)

$30 \times 4 = 120(\text{cm})$  ← ○○○○ (C君)



例題4

A君、B君、C君の3人の持っているお金の合計は6300円です。B君はC君の2倍より100円多く、A君はB君の3倍より50円多いそうです。3人の持っているお金はそれぞれ何円ですか。

答え A : 4250円 B : 1400円 C : 650円

[例題4の解説]

C君の持っているお金をもとにして線分図を書きます。

B君のお金はC 2本と100円になります。

A君のお金はB君が3つ分と50円になります。

よって右図のようになります。

C君にそろえます。

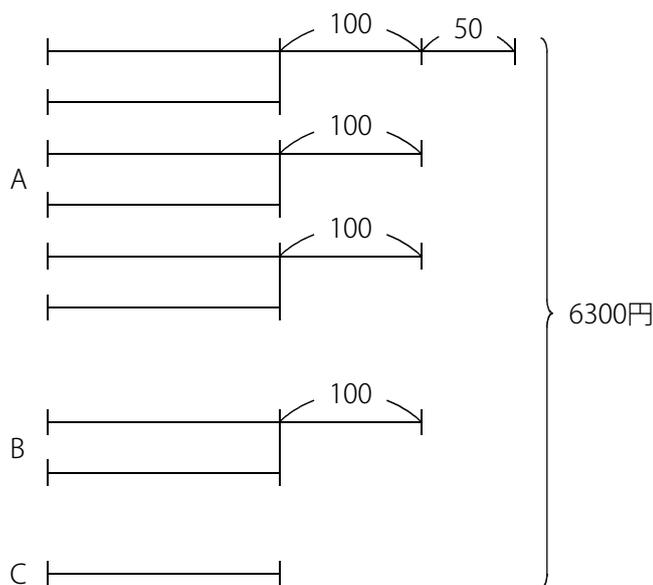
飛び出した部分は、 $100 \times 4 + 50 = 450$ (円)

$6300 - 450 = 5850$ (円) ← C 9本分

$5850 \div 9 = 650$ (円) ← C

$650 \times 2 + 100 = 1400$ (円) ← B

$1400 \times 3 + 50 = 4250$ (円) ← A





例題5

A君、B君、C君の3人の持っているお金の合計は3500円です。A君はB君の2倍より250円多く、C君はA君の2倍より400円少ないそうです。3人の持っているお金はそれぞれ何円ですか。

答え A：1150円 B：450円 C：1900円

[例題5の解説]

B君の持っているお金をもとにして線分図を書きます。

A君のお金はB君2本と250円になります。

C君のお金はB君2つ分から400円をひきます。

よって右図のようになります。

B君にそろえます。

飛び出した部分は、 $250 \times 2 = 500$ (円)

$3500 - 500 = 3000$ (円)

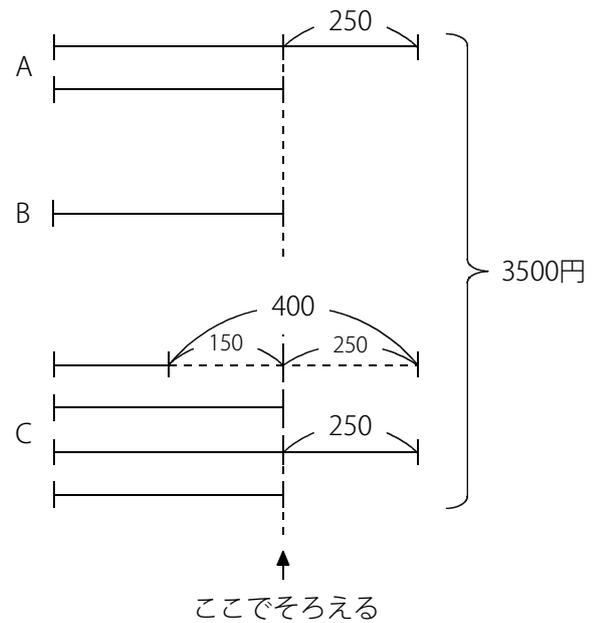
へこんだ部分は、150円なので

$3000 + 150 = 3150$ (円) ← B 7本分

$3150 \div 7 = 450$ (円) ← B

$450 \times 2 + 250 = 1150$ (円) ← A

$1150 \times 2 - 400 = 1900$ (円) ← C



ポイントまとめ

- 線分図をたてにそろえて書くと分かりやすくなります。
- B君の2倍であれば、B君の線分図をそのまま2つ書きます。
- 長さをそろえるために飛び出した部分やへこんだ部分に着目しましょう。